



平成29年度

まち・ひと・しごと創生総合戦略推進にかかる施策方針

まち・ひと・しごと創生総合戦略の着実な推進を目的として、平成29年5月に策定した施策方針の取組結果について、次のとおり報告します。

平成30年3月

教育委員会事務部長 軽 部 利 宣

1 総括

- 1 片上小学校の屋内運動場の屋根改修および市内小学校全12校の給食室の給排水設備改修ならびに鯖江東小学校（南校舎、屋内運動場）、片上小学校（北校舎、屋内運動場）および東陽中学校（東校舎）のトイレ改修を行うなど、学校施設の長寿命化と教育環境の向上を図りました。
- 2 生涯学習・まちづくり活動を支援する場としての公民館等の連携強化として、公民館長会や職員会議への出席、地域支え合い推進員と公民館職員の合同研修や事務改善等を行いました。また、社会教育委員会において、地域や家庭の教育力の向上を目指し、ワークショップ等を行い、課題の見える化に取り組みました。成人式の実施に当たっては、市連合青年団のメンバーが率先して成人式実行委員会での調整役を担うなど、活動の活性化を図りました。
- 3 高年大学開学40年に向けて、地域の高齢者が仲間づくりの輪を広げ、交流や学びを通して、健康で明るく楽しい日々が送られることを目標に、健康長寿でいきいきと勉学に励むとともにクラブ活動や地域貢献にも積極的に取り組みながら交流を深め合いました。
- 4 文化の館では、多様化する市民ニーズに応え、乳幼児から高齢者まで各層の市民が豊かな心を育めるよう、図書資料の収集を図りました。また、ライブラリーカフェなど市民との協働で開催し図書館の利用促進を図りました。
- 5 地域を学び、生きる力を育むふるさと教育の推進に努めました。地域の方との連携を通して、地域の歴史を知り、文化・自然に親しむことで郷土のすばらしさを実感するとともに、産業体験や職場体験、眼鏡デザイン実習、ものづくり博覧会参加等を通して、本市のものづくり産業に対する理解を深め、ふるさと鯖江を発展させようとする意欲や態度の育成に努めました。
- 6 食育を基盤とした、確かな学力、豊かな心、たくましい体を育む学校教育の推進に努めました。確認テストや新聞の活用とともに、ICTを積極的に活用した授業を推進して学力向上に努めるとともに、外部講師派遣による児童生徒の体力向上にも努めました。また、プログラミング教育や道徳教育の研修会を実施し、新学習指導要領実施に向け準備を進めました。さらに、関係機関と連携し、防災教育推進や子どもの貧困問題にも取り組みました。

- 7 まなべの館の企画展や鯖江市美術展等の開催により、市民が身近に芸術文化に触れることができる機会を提供しました。また、今北山・磯部・弁財天古墳群の発掘調査や兜山古墳の整備基本計画の策定、文化財の指定、歴史講座の開催等により文化遺産の保存・活用を図るとともに、ふるさと学習を推進しました。
- 8 昨年5月に開催した「福井しあわせ元気国体（なぎなた競技）プレ大会」での運営ボランティア活動、実証栽培や花の回廊づくりなど地域における花いっぱい運動を展開することにより、国体・障スポ本番に向けた市民理解の促進と参加意識の高揚に努めました。
- 9 総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の開催による事務局や指導者間の情報共有化、スポーツ振興計画推進委員会によるスポーツカレンダーなどの新規事業提案など、市独自のスポーツ資源を活用した生涯スポーツ推進事業に努めました。

2 課題・今後の方向性

- 1 財政状況を鑑み、今後、学校施設の大規模な改築が困難な状況を踏まえ、雨漏り対策等屋根および床等建物構造部の計画改修ならびにトイレ等の学校設備の更新を、国の補助制度を活用しながら計画的に進め、施設の長寿命化と教育環境の向上を図る必要があります。
- 2 公民館併設の体育館等社会教育施設は、生涯学習の場としてだけでなく、近年、まちづくり・自治振興・防災・福祉・環境等の拠点施設としての重要性が増し、災害時や緊急時の避難所としての高い安全性等が求められており、今後、施設の特定天井や照明器具等耐震補強を図る必要があります。
- 3 平成32年度から実施される新学習指導要領への対応を計画的かつ着実に進めていく必要があります。また、鯖江市が世界に誇る産業への理解を深めたり、関心を高めたりするものづくり教育を推進しながら、郷土への自信と誇りを育むふるさと教育を充実させる必要があります。さらに、ITのまち鯖江にふさわしく、ICT機器を活用した教育の取組みや設備の充実、プログラミング教育への対応など、ICT教育を推進していく必要があります。
- 4 国体・障スポ本番に向け、競技会場の設計、設営などの精度を高めるほか、選手や監督の皆様が鯖江市滞在が快適で充実したものとなるよう、宿泊施設の確保や輸送交通対策、競技会場や練習会場となる施設周辺の美化整備など、円滑な競技会運営に万全を期していく必要があります。

3 重点的に進める項目の取組結果

<取組項目>	<取組結果>
<p>1. 施設の計画的整備・改修</p> <p>学校施設の整備や改修、維持補修を計画的に行うとともに、社会教育施設の耐震化など適切な管理による施設の長寿命化、安全・安心の確保を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 小学校施設整備（屋根改修） 1校 ◆ 小学校給食室の給排水設備改修 10校 ◆ 小・中学校のトイレ改修（洋式化、バリアフリーの推進） 3校 ◆ 社会教育施設（公民館、文化センター等）の耐震化（設計・工事） 3館 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>片上小学校の屋内運動場屋根改修工事が8月に完了し、市内小学校全12校の給食室の給排水設備改修工事が10月に完了しました。鯖江東小学校、片上小学校、東陽中学校のトイレ改修工事が9月に完了しました。また、勤労青少年ホームの耐震補強工事が9月に完了し、神明公民館の実施設計、文化センターの耐震補強計画が年度内に完成しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 小学校施設整備（屋根改修） 1校[A] ◆ 小学校給食室の給排水設備改修 12校[A] ◆ 小学校のトイレの改修（洋式化、バリアフリーの推進） 3校[A] ◆ 社会教育施設（公民館、文化センター等）の耐震化（設計・工事） 3館[A]
<p>2-1. 公民館等との連携強化</p> <p>生涯学習・まちづくり活動を支援する場として、公民館等との情報共有に努め連携強化を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 公民館連絡協議会等への参加回数 9回 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>公民館長会や職員会議への出席、地域支え合い推進員の研修や公民館職員との融合のほか、事務改善等を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 公民館連絡協議会等への参加回数 12回[A]
<p>2-2. 地域の教育力の向上</p> <p>地域の小学生を対象に地域住民との交流を通して公民館等で合宿通学事業等を行うことにより、地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成や地域の教育力の向上を図ります。また、子どもたちが郷土に誇りと愛着を持てるよう、ふるさと学習・食育への取り組みを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 公民館の利用者数 50万人 ◆ 公民館合宿通学事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの参加者数 450人 ・ ボランティアの参加者数 1,200人 ◆ 公民館食育事業の開催 20回 ◆ 地域でのふるさと学習事業の開催（地区公民館） 32回 	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>地域住民と子どもたちの交流を通して、公民館等で合宿通学事業を行い、地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成や地域の教育力の向上を図りました。また、子どもたちが郷土に誇りと愛着を持てるよう、ふるさと学習・食育への取り組みを進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 公民館の利用者数 43万人[B] ◆ 公民館合宿通学事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの参加者数 434人[A] ・ ボランティアの参加者数 1,183人[A] ◆ 公民館食育事業の開催 21回[A] ◆ 地域でのふるさと学習事業の開催（地区公民館） 41回[A]
<p>2-3. 地域における青年活動の推進</p> <p>各地区公民館で開催する青年交流事業を契機として、青年たちの相互理解や地域理解を深めるとともに、地域の活性化やまちづくりにつながるよう、地域における青年活動の活性化を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域青年交流事業の参加者数 6,000人 ◆ 勤労青少年ホームの利用者数 27,000人 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>各地区公民館での青年交流事業を開催のほか、ユースカレッジにおける早稲田大学生との連携事業、成人式実行委員会と連合青年団のメンバーの関わりなど、青年たちの相互理解や地域理解を深め、地域の活性化やまちづくりにつながる取り組みを推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域青年交流事業の参加者数 6,092人[A] ◆ 勤労青少年ホームの利用者数 26,069人[A]
<p>3. 高年大学の活性化</p> <p>健康長寿および社会貢献を目的として、カリキュラムを充実するとともに、大学の活動を地域の諸活動と連携するため、まちなか授業や課外授業などを「市民公開講座」として開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 高年大学の利用者数 30,000人 ◆ 健康・体育関連授業の開催 60回 ◆ 社会貢献関連授業の開催 15回 ◆ I T 推進講座 12回 ◆ ふるさと講座の開催 15回 ◆ 公開講座の開催 24講座 800人 	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>開学40年に向けて、健康長寿および社会貢献を目的として更なるカリキュラムの充実に努めました。しかし、豪雪の影響により I T 推進講座、ふるさと講座、公開講座の一部が中止となりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 高年大学の利用者数 35,595人[A] ◆ 健康・体育関連授業の開催 66回[A] ◆ 社会貢献関連授業の開催 15回[A] ◆ I T 推進講座 1回[C] ◆ ふるさと講座の開催 12回[B] ◆ 公開講座の開催 21講座 410人[B]

<取組項目>	<取組結果>
<p>4-1. 文化の館における図書資料の充実</p> <p>多様化する市民のニーズに応えるため、知的財産である図書資料の充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 図書館の入館者数 30万人 ◆ 図書の貸し出し冊数 45万冊 ◆ ビジネス支援図書の貸出冊数 2,800冊 ◆ 図書リクエストへの対応率 95% 	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>多様化する市民のニーズに応えるため、知的財産である図書資料の収集を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 図書館の入館者数 28万人[B] ◆ 図書の貸し出し冊数 39万冊[B] ◆ ビジネス支援図書の貸出冊数 2,674冊[A] ◆ 図書リクエストへの対応率 100%[A]
<p>4-2. 市民との協働事業の推進</p> <p>市民協働事業として様々な分野で活躍している人を講師に招き、気楽な雰囲気の中で学ぶサロンを開催し、市民に知識や教養を深める場を提供します。また、地元の演奏家などを招いてコンサートを開催し、演奏家に発表の場を提供することで、音楽のある生活の豊かさを推奨します。さらに、「えきライブラリー」との連携支援を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「ライブラリーカフェ」 12回 600人 ◆ 「カフェコンサート」 2回 300人 ◆ 「えきライブラリー」の貸し出し冊数 1,100冊 ◆ 「えきライブラリー」の返却冊数 1,200冊 	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>市民協働事業として様々な分野で活躍している人を講師に招き、気楽な雰囲気の中で学ぶカフェを開催し、市民に知識や教養を深める場を提供しました。また、地元の演奏家などを招いてコンサートを開催し、演奏家に発表の場を提供することで、音楽のある生活の豊かさを推奨しました。さらに、「えきライブラリー」との連携支援を推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「ライブラリーカフェ」 11回 597人[B] ◆ 「カフェコンサート」 2回 291人[A] ◆ 「えきライブラリー」の貸し出し冊数 1,178冊[A] ◆ 「えきライブラリー」の返却冊数 1,465冊[A]
<p>4-3. 子どもの読書活動支援の推進</p> <p>未来を担う子どもたちの心を培うため、対象年齢別に子どもの読書支援イベントを実施します。学校、家庭、地域との連携協働を図り「学校図書館支援センター」を核として、学校図書ボランティアの育成に努めて、子どもの読書活動支援を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ こどもの読書支援イベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・「赤ちゃんとえほんの広場」の開催 12回 200人 ・「絵本とよちよち1・2・3」 12回 200人 ◆ 学校図書館支援センター事業 <ul style="list-style-type: none"> ・「図書館司書の日」の実施 全小学校 各15回 全中学校 各3回 ・こども読書感想文講座の実施 120人 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>対象年齢別に、未来を担う子どもの読書支援イベントを実施しました。また、学校、家庭、地域との連携協働を図り「学校図書館支援センター」を核とし、学校図書ボランティアの育成に努め子どもの読書活動支援を推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ こどもの読書支援イベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・「赤ちゃんとえほんの広場」の開催 12回 231人[A] ・「絵本とよちよち1・2・3」 12回 191人[A] ◆ 学校図書館支援センター事業 <ul style="list-style-type: none"> ・「図書館司書の日」の実施 全小学校 各17回[A] 全中学校 各5回[A] ・こども読書感想文講座の実施 137人[A]
<p>5-1. ものづくりを核としたふるさと教育(学習)の推進</p> <p>ものづくり体験等を通して地場産業の魅力を理解し、ふるさとに愛着や誇りを持ち、地域の発展に貢献できる人材を育成するために、ゲストティーチャーによる講演会を開催するとともに、小学校では地場産業製造体験や施設見学、中学校では職場体験やデザイン実習などに取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ものづくりや歴史文化などふるさと理解のためのゲストティーチャーによる講演会・体験活動の実施 全小中学校で2回 ◆ 眼鏡、繊維、漆器の製作体験の実施 全小学校の1学年の全児童を対象に各1回 ◆ 眼鏡のデザイン実習の実施 全中学校の1学年の全生徒を対象に各1回 ◆ ものづくり博覧会への参加 全中学校の1学年の全生徒を対象に各1回 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>ものづくり体験等を通して地場産業の魅力を理解し、ふるさとに愛着や誇りを持ち、地域の発展に貢献できる人材を育成するために、ゲストティーチャーによる講演会を開催するとともに、小学校では地場産業製造体験や施設見学、中学校では職場体験やデザイン実習などに取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ものづくりや歴史文化などふるさと理解のためのゲストティーチャーによる講演会・体験活動の実施 全小中学校で2回[A] ◆ 眼鏡、繊維、漆器の製作体験の実施 全小学校の1学年の全児童を対象に各1回[A] ◆ 眼鏡のデザイン実習の実施 全中学校の1学年の全生徒を対象に各1回[A] ◆ ものづくり博覧会への参加 全中学校の1学年の全生徒を対象に各1回[A]
<p>5-2. ふるさと学習の推進</p> <p>先人から受け継いだ地域の歴史や文化を学び、また体験することにより、ふるさとへの愛着と誇りを持つようふるさと学習に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域でのふるさと学習事業の開催数 (地区公民館) 32回<再掲> ◆ ふるさと学習の参加者数 2,000人 (まなべDEわくわくアートフェスタ、ふるさとさばえ検定、ふるさとさばえキッズ検定、近松入門講座、間部詮勝文化講演会等) 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>各地域の歴史や文化に関する講座や体験イベントを多数開催し、ふるさとの素晴らしさを再認識するとともに、愛着と誇りを持つようなふるさと学習に取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域でのふるさと学習事業の開催数 (地区公民館) 41回<再掲>[A] ◆ ふるさと学習の参加者数 2,345人[A] (まなべDEわくわくアートフェスタ、ふるさとさばえ検定、ふるさとさばえキッズ検定、近松入門講座、間部詮勝文化講演会等)

6-1. 基礎学力の定着と体力の向上・目の健康・防災教育

基礎学力の定着のために、児童の学習到達度を適切に把握し、課題克服のための指導の工夫・改善を行うとともに、新学習指導要領実施に向けてICT機器や新聞を積極的に活用した授業を推進し、一層の学力向上を目指します。また、学校体育の授業の充実と指導教員の資質向上を図りながら児童生徒の体力の向上を目指すとともに、目の健康につながる取り組みを推進します。さらに、災害時の危険を理解し、自らの安全を確保するために適切な行動がとれるような防災教育に努めます。

- ◆ 市独自の確認テストの実施 全小学校各1回
- ◆ ICT機器を活用した公開授業の実施 全小中学校各2回
- ◆ 普通教室のICT機器配置率 全小中学校90%
- ◆ 新聞を活用した授業の実施 全小中学校各1回
- ◆ こども用パソコンを活用したプログラミングの基礎実習の実施 小中学校7校
- ◆ 教職員プログラミング研修の実施 全小中学校各1回
- ◆ 体育実技講師の派遣 全小中学校各1回
- ◆ 目の健康に関するDVDを活用したビジョントレーニングの実施 全小中学校各1回
- ◆ 防災教育授業の開催 全小中学校各1回
- ◆ 学校が楽しいと思う児童・生徒の割合 小学6年生 90.0%、中学3年生 87.0%

【成果等】 目標を達成しました。

基礎学力の定着のために、児童の学習到達度を適切に把握し、課題克服のための指導の工夫・改善を行うとともに、新学習指導要領実施に向けてICT機器や新聞を積極的に活用した授業を推進し、一層の学力向上に努めました。また、学校体育の授業の充実と指導教員の資質向上を図りながら児童生徒の体力の向上を目指すとともに、目の健康につながる取組みを推進します。さらに、災害時の危険を理解し、自らの安全を確保するために適切な行動がとれるような防災教育に努めました。

- ◆ 市独自の確認テストの実施 全小学校各1回[A]
- ◆ ICT機器を活用した公開授業の実施 全小中学校各2回[A]
- ◆ 普通教室のICT機器配置率 全小中学校92%[A]
- ◆ 新聞を活用した授業の実施 全小中学校各1回[A]
- ◆ こども用パソコンを活用したプログラミングの基礎実習の実 小中学校8校[A]
- ◆ 教職員プログラミング研修の実施 全小中学校各1回[A]
- ◆ 体育実技講師の派遣 全小中学校各1回[A]
- ◆ 目の健康に関するDVDを活用したビジョントレーニングの実施 全小中学校各1回[A]
- ◆ 防災教育授業の開催 全小中学校各1回[A]
- ◆ 学校が楽しいと思う児童・生徒の割合 小学6年生 89.6%、中学3年生 85.2%[A]

6-2 食育の推進

子どもたちの健全な心身の成長のため、食育を教育の基盤として位置づけ、その推進に努めるとともに、食文化と農業に対する理解を深めます。さらに、生産に携わる人や食材への感謝の念を育むため、地域との連携により各小学校の学校給食の活用を図りながら、地場産(鯖江産)野菜等の使用率の向上を目指します。また、健康面により配慮した学校給食を提供します。さらに、経済的困窮家庭の子どもへの支援について担当部局との情報共有を図ります。

- ◆ 朝食摂取率 100%
- ◆ 学校給食の食育月間(6月・11月)における市内産食材平均使用率 30%<再掲>
- ◆ 鯖江和膳の日・ミニ地場産デー・アイアンの日(鉄分強化メニュー)・歯っぴーの日(かみごたえのあるカルシウム強化メニュー)の実施 全小学校各11回
- ◆ 経済的困窮家庭の子どもへの支援についての連絡会議 2回

【成果等】 目標を達成しました。

子どもたちの健全な心身の成長のため、食育を教育の基盤として位置づけ、その推進に努めるとともに、食文化と農業に対する理解を深める取組みを進めました。さらに、生産に携わる人や食材への感謝の念を育むため、地域との連携により各小学校の学校給食の活用を図りながら、地場産(鯖江産)野菜等の使用率の向上に努めました。また、健康面により配慮した学校給食を提供しました。さらに、経済的困窮家庭の子どもへの支援について担当部局との情報共有を図りました。

- ◆ 朝食摂取率 98.5%[A]
- ◆ 学校給食の食育月間(6月・11月)における市内産食材平均使用率 31%<再掲>[A]
- ◆ 鯖江和膳の日・ミニ地場産デー・アイアンの日(鉄分強化メニュー)・歯っぴーの日(かみごたえのあるカルシウム強化メニュー)の実施 全小学校各11回[A]
- ◆ 経済的困窮家庭の子どもへの支援についての連絡会議 2回[A]

7-1. 文化財の調査、保存、啓発の推進

古墳群をはじめとする貴重な文化遺産を幅広く調査し、保存の処置を講ずるとともに、優れた伝統芸能や技術を継承する市民や団体の文化財指定も進め、文化遺産を後世に引き継いでいくための事業を推進します。また、市内の文化遺産や指定文化財について、市民がさらに理解を深め、その保存と活用について身近に考えることができるような事業展開を図ります。

- ◆ 国・県・市指定登録文化財数 (H28年度末 文化財数203件→208件) 5件
- ◆ まちかど歴史浪漫コンサートの入場者数 200人
- ◆ 古墳見学会・文化財現地解説会等の参加者数 1,200人

【成果等】 目標を概ね達成しました。

貴重な文化遺産を幅広く調査し保存の処置を講ずるための文化財指定も進め、文化財を後世に引き継いでいくための事業を推進しました。また、市内の文化遺産や指定文化財について、市民がさらに理解を深め、その保存と活用について身近に考えることができるような事業として、出前講座・文化財説明会を開催し、多数の参加者を得ました。

- ◆ 国・県・市指定登録文化財数 (H28年度末 文化財数203件→205件) 2件[C]
- ◆ まちかど歴史浪漫コンサートの入場者数 188人[B]
- ◆ 古墳見学会・文化財現地解説会等の参加者数 1,519人[A]

<取組項目> □ □ □	<取組結果>
<p>7-2. 文化活動への参加と、豊かな心を育む文化のまちなちの推進</p> <p>郷土の歴史・伝統・芸術文化に身近にふれることにより、自信と誇りの持てるまちづくりを創造するとともに、市民や子どもたちの郷土に対する愛着心の醸成を図り、ふるさと学習の推進に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 鯖江市美術展の開催 出品数 450点 来場者数 7,000人 気軽にアート展出品数 3,000点 ◆ ふるさと学習の参加者数 2,000人<再掲> (まなべDEわくわくアートフェスタ、ふるさとさばえ検定、ふるさとさばえキッズ検定、近松入門講座、郷土史出前講座等) 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>市民の文化活動への参加を図り、郷土に対する愛着と誇りを継承して活性化を図るため豊かな心を育む文化事業を推進しました。また、子どもたちが様々な文化芸術に触れるとともに自らが主体的に取り組み、子どもの時から豊かな感性や表現力、創造性を育めることができるよう、文化芸術に直接触れる機会の充実に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 鯖江市美術展の開催 出品数 437点 来場者数 7,551人[A] 気軽にアート展出品数 4,796点[A] ◆ ふるさと学習の参加者数 2,345人<再掲>[A] (まなべDEわくわくアートフェスタ、ふるさとさばえ検定、ふるさとさばえキッズ検定、近松入門講座、郷土史出前講座等)
<p>7-3. まなべの館を活用した文化活動への参加と、文化に触れる機会の提供</p> <p>登録博物館であるまなべの館を活用して、市民が広く芸術・文化にふれて、鑑賞・参加・創造することができる機会の提供を図ります。</p> <p>博物館・美術館活動の中核をなす企画展開催事業を通して、市民に親しまれ、愛されるミュージアムを目指し、市の芸術・文化振興と歴史資料の公開・活用を目的として企画展を開催します。また、“ものづくり”や“アニメーション”など多くの特徴ある地域資源を有効に活用し、全国レベルで活躍している作家の作品にふれることができる企画展や親子で楽しむことができるふるさとさばえの歴史資料に関する企画展を開催し、芸術・文化・郷土史とのふれあいを通じて、心身ともにバランスの取れた子どもたちの育成、高齢者の生きがい向上など幅広い世代が学び、遊び、楽しめ、親しみ、わかりやすい当館ならではの特色のある事業の推進を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ まなべの館企画展開催事業来場者数 合計 5,000人 (澤田教一展、越前戦国演義一戦雲の果てに一、) クリヨウジアートドキュメント) ◆ まなべの館創造空間事業(貸館事業)来場者数 18,000人 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>市民が広く芸術文化に触れ、鑑賞・参加・創造することができる機会や場を創出する事業として、“まんが”“アニメーション”など特徴ある地域資源を有効に活用した事業や全国的に評価の高い作品に触れることができる企画展、郷土の歴史に関する企画展を開催し、市民の文化意識と郷土に対する愛着心の高揚に努め、多くの来館者を集客できました。また、創造空間事業では、市民が文化活動発表の場として、多くの市民が利用、鑑賞、交流し、まなべの館を有効活用しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ まなべの館企画展開催事業来場者数 合計 7,565人[A] (澤田教一展、越前戦国演義一戦雲の果てに一、) クリヨウジアートドキュメント) ◆ まなべの館創造空間事業(貸館事業)来場者数 24,853人[A]
<p>8. 市民が一体となった「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」開催の推進</p> <p>プレ大会実施本部へボランティアスタッフを積極的に起用する事により、福井しあわせ元気国体・大会に対する理解と関心を深め、市民参加意識の高揚に努めます。</p> <p>また、実証栽培やプレ大会の歓迎装飾などによる花いっぱい運動を全市的に展開することを通して、あたたかいおもてなしの心で歓迎する「ふるさとさばえ」を実践するとともに、地域ブランド「めがねのまちさばえ」の情報発信にも努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ なぎなた競技プレ大会(第58回都道府県対抗なぎなた大会)へのボランティアスタッフの起用数 延べ90人 ◆ 育成花苗による実証栽培・プレ大会歓迎装飾プランター数 400プランター ◆ 広報さばえ、市ホームページでの国体・大会関連情報の掲載 10回 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>国体プレ大会として開催した、なぎなた競技プレ大会の運営に、ボランティアスタッフも精力的に参画したことにより、なぎなた競技に対する関心が高まりました。また、実証栽培などの花いっぱい運動の地域展開が、来年の国体本番に向けた気運醸成につながりました。</p> <p>また、広報さばえへの国体・障スポ関連情報の連載や市ホームページ・SNSでの情報発信により、市民協働のスポーツイベントとしての啓蒙に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ なぎなた競技プレ大会(第58回都道府県対抗なぎなた大会)へのボランティアスタッフの起用数 延べ120人[A] ◆ 育成花苗による実証栽培・プレ大会歓迎装飾プランター数 660プランター[A] ◆ 広報さばえ、市ホームページでの国体・大会関連情報の掲載 20回[A]

9. 生涯健康および生涯スポーツ社会の推進

総合型地域スポーツクラブや開放学校など、鯖江の恵まれたスポーツ環境を活用し、市民がそれぞれのライフスタイルに応じて、健康でいきいきとスポーツに親しめるまちづくりを目指します。また、スポーツ推進委員やスポーツ指導者と連携しながら出前講座やスポーツ教室などを開催し、誰もが生涯を通してスポーツを続けられる社会を推進します。

◆ スポーツ施設等の利用者数	360,000人
◆ 総合型地域スポーツクラブ会員数	2,200人
◆ 小学生のスポーツ少年団および総合型地域スポーツクラブの加入率	40.0%
◆ 小学校・老人団体等へのスポーツ出前講座の開催	70回 1,600人
◆ 健康教室、ニュースポーツ教室・スポーツ交流事業の開催	60回 1,500人

【成果等】 目標を概ね達成しました。

(一社)鯖江市体育協会、総合型地域スポーツクラブ、市教委で組織する連絡協議会を通じて、各種スポーツ団体間の連携を強化しながら、各種スポーツイベントを通して生涯スポーツの推進に努めました。また、総合型地域スポーツクラブや鯖江市スポーツ推進委員によるスポーツ教室・出前講座などを通じて、誰もがスポーツに取り組むことのできるきっかけづくりに努めました。出前講座をきっかけに地域の公民館に根付いた健康教室も出てきています。

◆ スポーツ施設等の利用者数	330,874人[B]
◆ 総合型地域スポーツクラブ会員数	2,109人[A]
◆ 小学生のスポーツ少年団および総合型地域スポーツクラブの加入率	37.4%[B]
◆ 小学校・老人団体等へのスポーツ出前講座の開催	51回 972人[C]
◆ 健康教室、ニュースポーツ教室・スポーツ交流事業の開催	51回 1,622人[B]